

龍馬と学ぼう

日商簿記2級

日商簿記2級フリーテキスト講座

<工業簿記3> 労務費

全6枚



無料講座

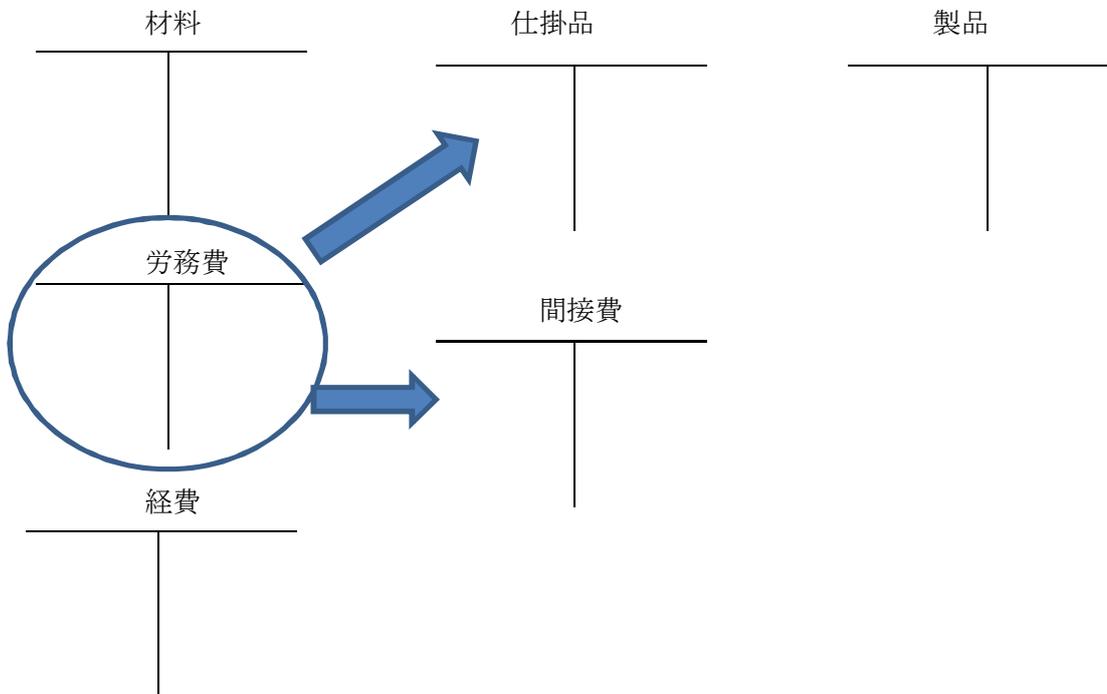
月に一回

質問も無料ぜよ



弥生カレッジCMCのフリーテキスト講座（無料動画で公開中）

無料動画はお持ちのテキストの該当の章を読んだうえで視聴して下さい



今日は、労務費の内容をじっくり見ていきましょう

原価計算のスタートは、まず「工場でかかった、ありとあらゆる経費を材料費・労務費・経費に分ける事」からはじまります。



千葉佐那よ！
同じ事ばかり
いってると矢
を放ちます

近藤勇だ！これは大事
覚えておくように



労務費は「人にかかる費用の全般」です

原価計算基準ではこのように書かれています。

労務費とは、労務用役の消費によって生ずる原価をいい、おおむね次のように細分する。

- 1 賃金（基本給のほか割増賃金を含む。）
- 2 給料
- 3 雑給
- 4 従業員賞与手当
- 5 退職給与引当金繰入額
- 6 福利費（健康保険料負担金等）

佐那さん！大事な事
は何度も言わにやな
らんきに



< 直接労務費 >

直接賃金 (必要ある場合には作業種類別に細分する。)

< 間接労務費 >

間接作業賃金、間接工賃金、手待賃金、休業賃金、給料、従業員賞与手当、退職給与引当金繰入額
福利費 (健康保険料負担金等)

一 二 労務費計算

(一) 直接賃金等であって、作業時間又は作業量の測定を行なう労務費は、実際の作業時間又は作業量に賃率を乗じて計算する。賃率は、実際の個別賃率又は、職場もしくは作業区分ごとの平均賃率による。平均賃率は、必要ある場合には、予定平均賃率をもって計算することができる。

直接賃金等は、必要ある場合には、当該原価計算期間の負担に属する要支払額をもって計算することができる。

(二) 間接労務費であって、間接工賃金、給料、賞与手当等は、原則として当該原価計算期間の負担に属する要支払額をもって計算する。

※福利厚生費 (福利施設負担額) は経費、法定福利費は労務費になります

1. 直接労務費と間接労務費

毎回同じ話ですが、かかった費用は製品に直接紐づけができるかどうかで直接費と間接費に分ける必要があります。

分け方は

直接工の直接作業時間だけが、「どの仕事にかかった時間かが」明らかなので直接費

それ以外は間接費です

直接以外は間接。
簡単ね！



もう少し詳しく見てみましょう

お持ちのテキストを参照して下さい

サク（4版）P48、スッキリ（3版）P42、教科書 P44 に原価計算期間と給料計算期間の図が出ています。

難しそうですが、締日単位ではなく、暦（1日から月末までの期間）で計算するという事です。

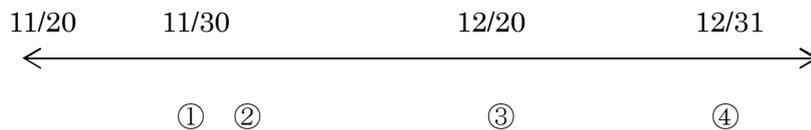
要は、当月支払った分に当月働いてもらったけれど未だ払っていない分（当月未払）を加算し、当月払った前月分を差し引いてください、という意味です。

当月（支払額）+ 当月（未払額）- 前月（未払額）と考えれば楽ですね

いいですか？ 当月分 = 当月 + 当月 - 前月です！！

しっかり理解したい方は下記の見越・繰延の考え方で確認して下さい

<例>



- 11/30 ①賃金 10,000 / 未払賃金 10,000
- 12/01 ②未払賃金 10,000 / 賃金 10,000
- 12/20 ③賃金 500,000 / 現金 450,000
預り金 50,000
- 12/31 ④賃金 20,000 / 未払賃金 20,000

賃金（12月）	
	前月未払 10,000
当月支払 500,000	
当月未払 20,000	

4. 予定配賦という考え方（材料費に続いて、しつこく行きます）

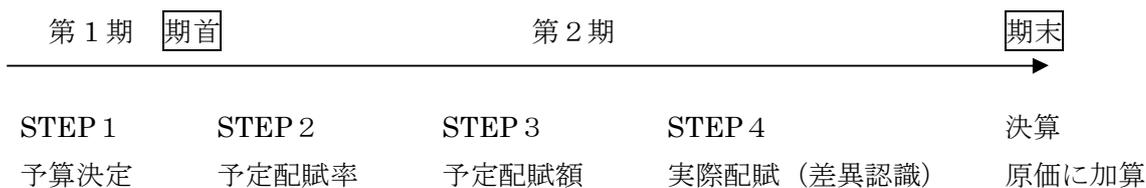
日商簿記2級の第4問での出題頻度の高い予定配賦（90%くらい？）

ここは、しっかりと理解して下さい。

原価計算を迅速にしたい！単価を安定させたい！この2点が営業部からの要請です。

このイメージで、予定配賦の考え方を動画で説明します

手続きは以下の通りです。



STEP1（予算決定）

第1期の最後に当期の実績を参考に来季の予算組をします

第1期の実績→直接工の年間勤務時間 2,000 時間 支払金額 4,000,000

STEP 2（予定配賦率の計算）

単価が出ます。@2,000 円ですね。変な日本語ですが、これを予定配賦率といいます。

STEP 3（予定配賦額）

ここが難しいようですが・・・

今月の日報を集計すると、直接作業に 110 時間、段取り時間に 10 時間、間接作業（掃除）に 30 時間
手待ちに 10 時間でした（段取りは直接に含み、手待ちは間接に含みます）

仕掛品 240,000 / 賃金 320,000 ①

製造間接費 80,000

STEP 4（実際配賦）

翌月 10 日に平均単価（数人の作業）が算出されました。1,900 円です

もしも予算を決めていなかったら、この段階で下記の仕訳を行います

仕掛品 228,000 / 賃金 304,000

製造間接費 76,000

でも、帳簿には①の金額で処理されています。製品を製造する為にかかった人件費が 304,000 円なのに 320,000 円で報告してはまずいですね。投資家や銀行の信用を失います。税務署からもチェックされます。そこで・・

<貸金 16,000/貸率差異 16,000> という仕訳をします

差異勘定の名前は難しいので、とりあえず「差異」で覚えて下さい。簿記の試験では勘定科目は与えられますから覚える必要はありません。

また貸金の価格が予定よりも安かったので会社にとっては有利ですね。

従ってこの差異の事を有利差異といいます。

差異勘定が貸方に来るので、貸方差異ともいいます。

ごろ合わせで覚えましょう。

「借りたら不利」「カリフリー」どちらでもOKです

その逆で考えて下さい

「貸したら有利」「カシユーリ（これは意味不明）」

STEP5（差異の期末会計処理）

言葉は難しいですが、予定のまま決算報告書を出したら「嘘の財務諸表」を報告する事になります
そこで、差額を売上原価に加算（減算）します

先の例で直接労務費だけで考えてみましょう

貸金	仕掛品	製品	売上高 300,000
240,000	240,000 240,000	240,000 240,000	

この場合 P/L の利益は 60,000 です

でも、本当は 228,000 の原価で利益は 72,000 ですね

このままではウソになるので、投資家や税務所に報告する決算のタイミングで原価を 12,000 円減算します

各テキストにのっている

<原価差異 12,000/売上原価 12,000> というのはこういう意味なのです

132 回第 4 問の 2. (1)(2)にチャレンジしてみてください

CMC では過去問演習の為に、「過去問ゼミ」を販売しています。

本試験対策にぜひご利用ください